新しいパーキンソン病の検査ができるようになりました。

2014年1月から新しいパーキンソン病診断薬が発売されました。
当院でも本剤の検査及び診断に対応しております。

検査の特徴

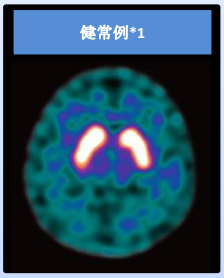
パーキンソン病は、何らかの原因で脳内のドパミンが不足して起こるとされています。
この検査はドパミン量の調節に関与しているドパミントランスポーターという特殊なタンパク質を画像化します。

このタンパク質は脳の線条体という部分に多く存在するため、正常では上図のように線条体の部分が「ハ」の字に描かれます。

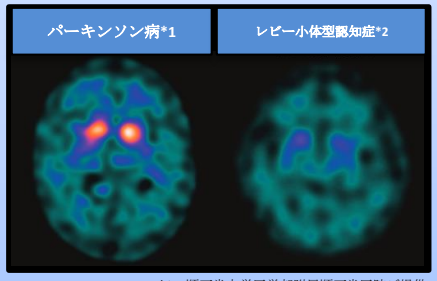
パーキンソン病やレビー小体型認知症の場合には、下図のように「ハ」の字ではない画像となるため、この描出から病態を判断します。

従来の検査と比較して、線条体の状態を直接見ることができるため、パーキンソン症候群やレビー小体型認知症の早期診断が可能になるとされています。

＜健常例＞



＜疾患例＞



*1：順天堂大学医学部附属順天堂医院ご提供
*2：順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センターご提供

ダットスキャン®静注パンフレットより抜粋

検査について

検査薬を注射し、
撮影まで3時間待ちます。

検査に伴う痛みは
この注射だけです。

3時間後

その後、仰向けに寝た状態で、特殊なカメラ（ガンマカメラ）で頭を30分ほど撮影します。

この間は、動かずに安静にしていただきます。

この薬は放射線を出しますが、その量が少ないため、心配ありません。
受ける放射線の量はほぼ胃のX線検査と同じくらいです。
体内の放射線は短時間のうちに少なくなり、排泄されてなくなります。

検査についてのご不明な点は、
当院放射線科外来までご連絡をお願いします。

青森労災病院
放射線科